

センター研究計画申請書

研究テーマ： 大学のグローバル化政策が大学組織に与えた効果と今後の課題に関する研究

研究者：	大膳 司（高等教育研究開発センター教授）	総括
	黄福 涛（高等教育研究開発センター教授）	インタビュー調査
	秦由美子（高等教育研究開発センター教授）	インタビュー調査
	大場 淳（高等教育研究開発センター准教授）	インタビュー調査

1. 研究目的：

①本研究に関連する国内・国外の研究動向及び位置づけ

経済のグローバル化が進む中で、日本の企業・政府は様々な制度・組織のグローバル化を求めてきた（経団連, 2011； 自由民主党教育再生実行本部, 2014； 中央教育審議会, 2011）。それらに即応して、文部科学省も競争的資金を用いて大学のグローバル化を促進してきた（スーパーグローバル大学創成支援等）。

それらの状況に関して、本センターでも、2014 年には、高等教育におけるグローバル化について専門家で協議してきたし、大膳(2015)を中心として各大学・学部において大学のグローバル化の計画や実態を明らかにするため、インタビュー調査やアンケート調査を実施してきた（広島大学高等教育研究開発センター, 2011；大膳, 2015）。

本研究では、①大学のグローバル化を支援するこれまでの政策や施策が、大学のグローバル化をどの程度底上げしたのか、②大学や大学教員の活動にどのような影響を与えているのか（當山他, 2012）、を明らかにしようとするものである。

- ・ 日本経済団体連合会(2011. 06. 14.)『グローバル人材の育成に向けた提言』
- ・ 自由民主党教育再生実行本部（2014. 04. 08.）「成長戦略に資するグローバル人材育成部会提言」
- ・ 中央教育審議会（2011. 01. 23）「グローバル化社会の大学院教育～世界の多様な分野で大学院修了者が活躍するために～（答申）」
- ・ 広島大学高等教育研究開発センター編(2015)『高等教育研究叢書 130 高等教育とグローバル化：グローバル人材養成の課題・可能性：第 42 回(2014 年度)研究員集会の記録』
- ・ 大膳司(2015. 03.)「機能分化からみたグローバル人材養成に関する研究－日本の学部長調査の報告－」 広島大学・高等教育研究開発センター編『戦略的研究プロジェクトシリーズIX 大学の機能別分化の現状と課題』151-168 頁。
- ・ 當山 明華 , 金井 里弥(2012)「シンガポールと韓国におけるカレッジ・アドミッション：グローバル化の影響に着目して」『日本教育心理学会総会発表論文集』54, 358 頁。

②応募者のこれまでの研究成果を踏まえ、着想に至った経緯、これまでの研究成果を発展させる場

合にはその内容等

大膳(2015)を中心として各大学・学部において大学のグローバル化の計画や実態を明らかにするため、インタビュー調査やアンケート調査を実施してきた(大膳, 2015)。今年度は、企業ではどのようなグローバル人材が求められているかを明らかにするため、外資系・上場・中小企業を対象にアンケート調査を実施し、分析を進めている。

その結果、2010年代にはいって大学のグローバル化を求める政策や施策が盛んとなっており、大学への支援も積極的に行われてきた。多くの大学の経営陣は、それらに応じて自大学のグローバル化を進めようと競争的資金の獲得に努めていることが明らかになった。

では、以上のこれまでの大学のグローバル化を支援する政策や実践は、大学のグローバル化をどの程度底上げしてきたのだろうか。大学によっては、グローバル化に対する積極的な取り組みが確認される反面、身の丈に合った取り組みを模索する動きも出てきている。そのことは、国立大学において、第3期中期計画において見受けられるはずである。

③研究期間内に何をどこまで明らかにしようとするのか

本研究では大学教員に対するアンケート調査やインタビュー調査を通して、以下の2点を明らかにする。

第1に、大学のグローバル化を促進させる要因と抑制する要因を、大学レベル、学部レベル、教員レベルで明らかにする。

第2に、大学のグローバル化を求める施策の展開が、大学や大学教員の活動にどのような影響を与えているかを明らかにする。

④当該分野における本研究の学術的な特色・独創的な点及び予想される結果と意義

これまでの大学のグローバル化を対象とした研究は、大学のグローバル化をどのように促進させるかという立場でのものが主で、大学のグローバル化の副作用について触れた研究はあまりない。さらに、人材養成の面から見ると、大学のグローバル化よりも、国内インターンシップの整備やアクティブラーニングの実施などが重要な施策であるともいえよう。

本研究では、教員を対象としたアンケート調査を通して、教育の現場からのグローバル化に対する意見を収集することで、どの面でグローバル化が効果を上げているのか、どの面で副作用が出ているのかが明らかになり、そのことを通して、今後の大学のグローバル化の進め方について新たに提言できるものと考えている。